

第2号

ふっこう訓練通信



令和7年11月／発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：田上・山本・石塚）／電話：03-5654-8382

第2回 青戸地区震災復興まちづくり訓練を実施しました！

10月29日（水）18時半から「青戸地区 第2回 震災復興まちづくり訓練」を開催しました。

ふっこう訓練通信第2号では、「第2回訓練」の様子をお伝えします！

当日の資料などは、区のホームページでご覧いただけます。

トップページ>くらし・手続き>安心・安全>防災・国民保護>震災復興まちづくり訓練について

ホームページへの
アクセス
はこちらから

第2回訓練（令和7年10月29日）～地域協働復興の重要性

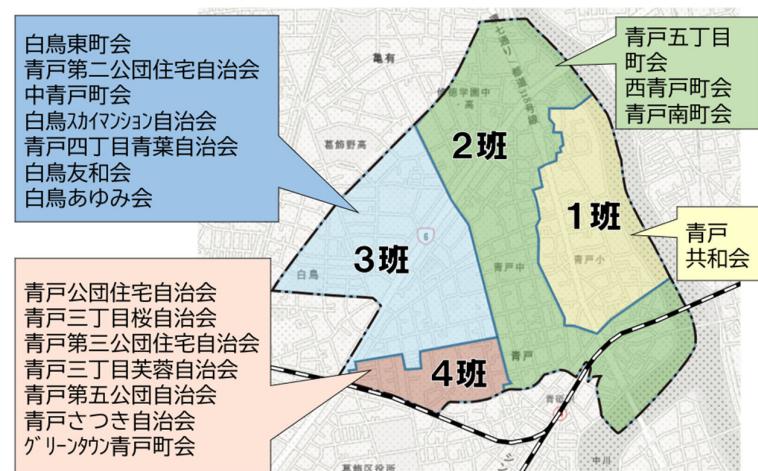
を学び、被災後の「住まい」の復興を考えよう～ の概要



第2回訓練では、地域の方々29名にご参加いただき、訓練用の「青戸地区の被害想定」の確認後、被災後の住まいの確保などについて、グループワークで話し合いました。

（1）グループワーク〈被災後の「住まい」の復興を考えよう〉

参加者が4班（右図）に分かれ、被害状況や世帯設定が異なる被災者になりきり、「住まいの復興」について考えました。被災後の仮住まいや自宅の再建方法、復興課題について意見交換するグループワークです。主なご意見は下記の通りでした。



第2回訓練の内容

- (1) ガイダンスの振り返り
- (2) 葛飾区の被害想定と
地域協働復興を知る
- (3) 青戸地区の特性と訓練用被害想定
- (4) 被災後の「住まい」の復興を
考えよう
- (5) 発表
- (6) 解説

グループ
ワーク
の様子 ⇒



世帯設定と主な意見

＜凡例＞【基本情報】

①世帯構成 ②職業 ③建物 A:応急危険度判定 B:被害状況 （※ 2班と3班は、被災者の設定が同じです）

【1班】東京 一子(70)

- ①なし（大阪に
長男夫婦）
- ②無職
- ③戸建て住宅
(木造2階) 築40年
- A:危険 (全焼)
- B:全壊



1班の主な意見

- 可能な限り、住み慣れた地域に残りたい。ま
ずは避難所での生活
を選ぶ。
- 復興へ向け、地区の状
況を確認できる場所
で暮らすことは重要。

【2班】東京 太郎(72)

- ①妻(70)(都内に長男)
- ②無職 町会・自治会長
- ③戸建て住宅
(木造2階) 築40年
- A:要注意
- B:中規模半壊
+浸水被害



2班の主な意見

- 町会長であるが、すつ
と避難所にいると心
身共に休む暇が無く
大変になる。このた
め、昼間は避難所運
営、夜間は自宅で休む
形が良い。

【3班】東京太郎(72)
①妻(70)(都内に長男)
②無職 町会・自治会長
③戸建て住宅 (木造2階) 築40年
A:要注意
B:中規模半壊 <u>土浸水被害</u>



3班の主な意見

- 避難生活は、避難所でみんなと一緒に心強い。
- 住まい再建は、長男と相談し、賃貸住宅の保証人になってもらう。

【4班】東京 花子(57)

- ①なし
 - ②会社員
 - ③分譲マンション
(4階) 築20年
- A:調査済
B:一部損壊
土浸水被害



4班の主な意見

- 1階が水没なら、地区外避難として知人宅やホテルを考える。
- 早期にライフラインの復旧や清掃、ローン免除があれば戻れる。

(2) 解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

今回、皆さんがあげた意見を交わされました。まちづくりを議論する際、これが最も重要な要素で、たくさんの方々が話して色々な意見が出ることで、より多様で良好なまちづくりへと展開することができます。復興とは、被災者1人ひとりの復興＝「被災者復興」と、街をどうするかという「被災地の復興」があります。今日は住宅の話が中心でしたが、お店や企業も事業所という法人なので、1つ1つが復興主体になります。



被災者の復興には罹災証明の申請が重要です。罹災証明は住宅の被害程度に応じて発行するため、地震、水害、液状化など、被災ごとに細かく基準が決められています。被災者復興の中で最大の課題は家の再建です。修理でも高額ですし、建てる際はものすごくお金がかかる。この住宅再建には一定の公的支援があります。公的支援を公平に行うための証明書が罹災証明です。罹災証明は申請しないと発行されません。申請受付前行政は一軒ずつ調査しますが、日が経つと被害状況が変わるので、被災直後に自宅の被害状況の写真をスマホ等で撮りましょう。

再建の際、お金の話が誰でも大問題になります。地震保険に未加入の方はぜひ入ってください。お金はかかりますが、誰もができる事前復興です。被災しないと保険金を受取ることはできませんが、掛け捨てで損をする訳ではありません。私も長年、地震保険をかけてきましたが、これだけ災害が続いている間に保険金を受取る人がたくさんいます。そのほんの一部でしょうが、私の長年にわたる掛け金が、被災者への支払い金となって支援しているのです。

● 平時からのコミュニティが大事です

避難所では三食出ますが、仮設住宅に入ると家賃以外の食費や電気・水道代など生活費が自己負担になります。若い世代は稼ぎが必要になり、能登半島地震でも住みなれたまちを離れ、仕事のある金沢等へと流出した被災者は多い。東日本大震災の例でも、同居する子どもにとっては3年以上地元を離れると学校の関係で故郷に戻る感覚が薄れます。グループ発表でも近所のお付き合いや友達などコミュニティが大事という話が多く出ました。どこにどう住まいを復興するか。平時からご近所や行政とで話し合っておくコミュニティづくりは、復興にも重要なことです。

今後の訓練スケジュール

会場：青戸地区センター3階大会議室
時間：18時30分～20時30分

どなたでも
ご参加いただけます！

▶第3回訓練 令和7年11月20日(木) 被災後の「都市」の復興を考えよう

▶第4回訓練 令和8年 1月28日(水) 「青戸地区震災復興の進め方」をまとめよう

※次回訓練からもご参加いただけます。下記よりお申込みください。多くの方のご参加をお待ちしております。

※既にお申込みいただいた方は再度のお申込みは不要です。

参加申込シート (FAX送信用) 葛飾区 都市整備部 都市計画課宛 FAX: 03-3697-1660

フリガナ
お名前

住所〒

TEL

メールアドレス

WEBでお申込みの方はこちら



二次元コード
を読み、必須
事項にご回答く
ださい。

※FAX送付の方は必要事項をご記入のうえ、この紙面をお送りください。※収集した個人情報は本訓練以外の目的では使用いたしません。